

『インプラント上部構造の製作におけるポイント』

オッセオインテグレーションの概念が提唱されて以後、各社様々な表面処理やフィクスチャーデザインが開発され、治療技術に関しても、骨形成術等により適切な骨形成が可能となり、多くの症例で補綴主導型の術式が採用されている。

そして、インプラント上部構造に対する考え方も変化し、機能性と審美性の回復し、永続性を与えることが、上部構造の大きな役割であるといえる。

特に、ラボサイトにおいては、技術面はもちろんであるが適切な診査、診断を行い、術式、デザインを決定することが必要となる。

上部構造の永続性のためには、生物学的な要因と形態学的な要因を十分に理解し、アプローチすることになる。

今回は、上部構造の永続性のために必要な要因ならびにガイドラインを解説し演者の考えを述べたい。また、インプラント補綴術式についても、ステント、印象、補綴術式のステップ毎に紹介し、CAD/CAM システムとの連携についても触れてみたいと考えている。

『各 CAD/CAM 材料の特徴とその考察』

近年の歯科分野において、CAD/CAM 技術は多くの症例に応用されている。

今まで CAD/CAM 技術は、オールセラミックスやインプラント等自費治療を中心に使用されてきたが、2014 年に CAD/CAM 冠が保険収載され、保険治療にも CAD/CAM 技術が応用される時代になってきた。

そのような状況な中で、CAD/CAM システムで加工される材料は多種多様に渡っている。

これら材料を上手く使用するためには、各材料の特徴を理解し、適切な条件で使用することが必要である。

例えば、ジルコニア等は加工物のデザインはもちろんであるが、焼成スケジュール等十分に理解した上で使用することが必要である。

本研修会では、特にジルコニア、チタン、コバルトクロム合金、ハイブリットレジンブロックを中心にそれら材料の特徴について整理し、臨床に使用するためのポイント等について解説したいと考えている。

本研修会が先生方の日常臨床の参考になれば幸いです。